(2) 脳室周囲白質軟化症（Periventricular Leukomalacia PVL）について

松戸市立病院
竹内　豊，小林道生

極小未熟児の超音波診断を続けて行っている内に，側脳室外上方の白質部に初期には比較的ハイエコーを呈し，後にcyst様に軟化所見を呈してくる病態のある症例に気付いた。検討期間の3年間に7例の症例に遭遇したが，いずれも脳室内出血はGrade Ⅱ以内で軽度であったが神経学的予後は表5に示すように重篤であった。部位的にみても運動ニューロンの重要な走行部に一致しているためにもたらされた症状と考えられる。本病変の生ずる機序については未だ不明であるが，虚血性病変が極めて疑わしい。脳室周辺の出血と本病変との関係など今後検討を要する問題である。

表5

PVL症例の予後

症例	追跡期間（修正）	EEGの異常	抗痙攣剤投与	運動訓練開始修正月例	神経症状
1	3才	(+)	(−)	3ヶ月	四肢麻痺，MR，内斜視
2	1才6ヶ月	(−)	(−)	6ヶ月	四肢麻痺
3	1才6ヶ月	(−)	(−)	1ヶ月	四肢麻痺，MR
4	12ヶ月	(+)	(+)	7ヶ月	四肢麻痺，小頭症
5	12ヶ月	(+)	(−)	6ヶ月	四肢麻痺，
6	11ヶ月	(−)	(−)	4ヶ月	両下肢に痙性強い
7	10ヶ月	(+)	(+)	4ヶ月	四肢麻痺，小頭症，視神経萎縮

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

極小未熟児の超音波診断を続けて行っている内に,側脳室外上方の白質部に初期には比較的ハイニコーを呈し,後に cyst 様に軟化所見を呈してくる病態のある症例に気付いた。検討期間の 3 年間に 7 例の症例に遭遇したが,いずれも脳室内出血は Grade1 以内で軽度であったが神経学的予後は表 5 に示すように重篤であった。部位的にみても運動ニューロンの重要な走行部に一致しているためにもたらされた症状と考えられる。本病変の生ずる機序については未だ不明であるが,虚血性病変が極めて疑わしい。脳室周辺の出血と本病変との関係など今後検討を要する問題である。